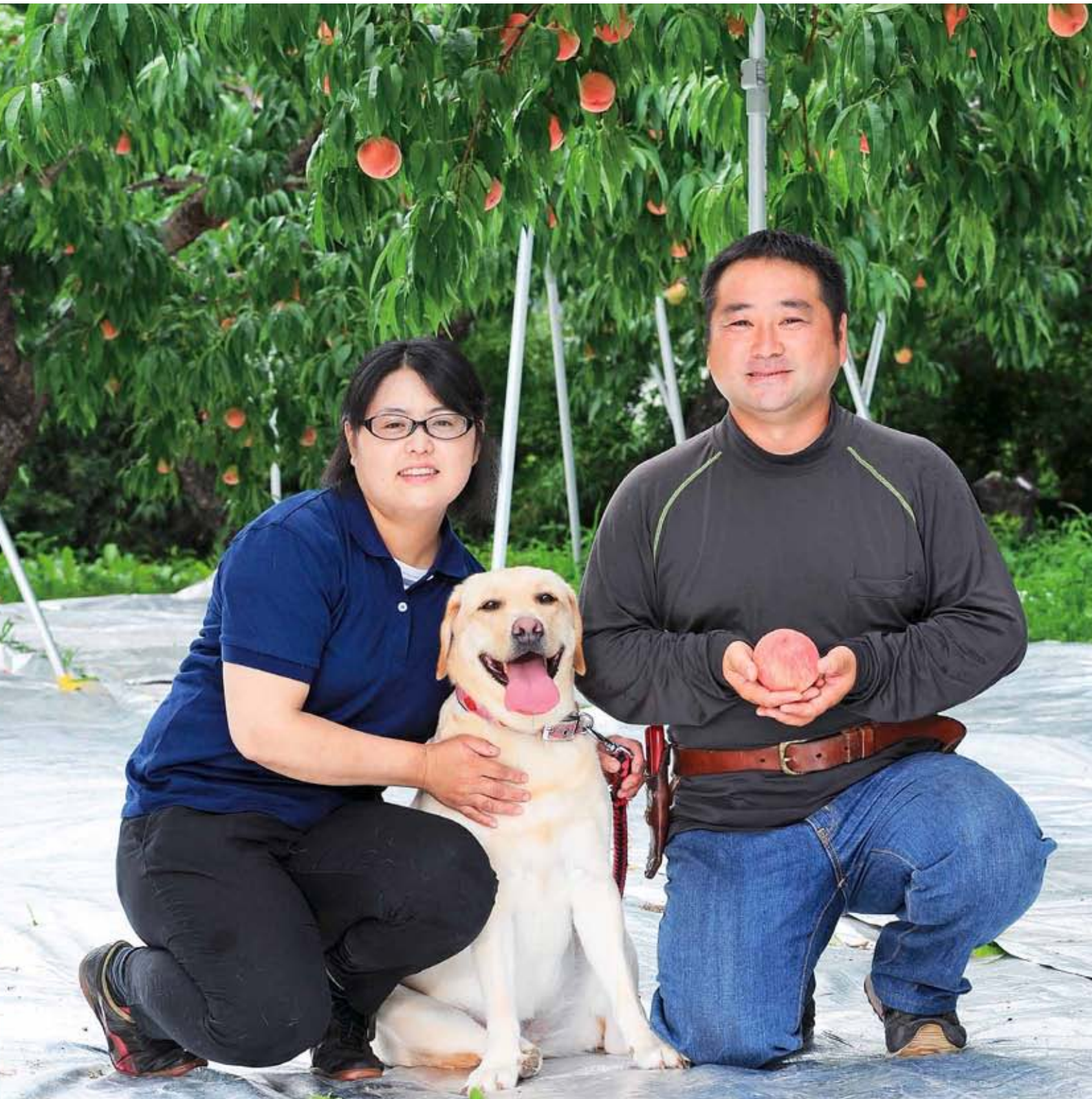


果実も人とのお付き合いも 日々大切に育てています

PROFILE

2人とも1976年生まれで、徹也さんは和歌山県、美千代さんは三重県出身。2011年に三重県から福島市へ夫婦で移住し、果樹農家としてモモとリンゴを育てています。

大内果樹園 / 大内 おおうち てつや 徹也さん・美千代さん みちよ



~O]tEæpMh z*ô^
 æw•i~èN•]• pSZ
 TZ{ L%? wZ.πt|
 <`oMhiMh]Ûtwá•^
 æqxzqO<SÇVùMU M
 oM‡b{ ñaÉÛ@ k\$ -
 >MhiV‡b, sÔtxzi,
 2V•9~),`æpM‡b{

**確固たる技術を学びたい！
 その思いが移住を後押し**

大学卒業後、大手スーパーマーケットに就職した僕は、赴任先の三重県で買い付けや仕入れのために農家の皆さんを訪ねる機会がたくさんありました。そして、愛情を注いで栽培する姿や見事に実る作物を長年見ているうちに、僕も農業に挑戦したいと思うようになったんです。30歳の時に妻と結婚し、半年が経った頃、思い切って「農業がしたい」と打ち明けたのですが、妻に加えて両親にも反対され、一度は断念しました。しかし、やはりあきらめきれず、33歳の時に再度相談。すると、「そんなにやりたいなら…」と、受け入れてもらうことができました。

好物のモモを育てたかったので、果樹栽培がさかんな地域の情報を集めていたある時、東京で開

農業は自然相手なので苦労もありますが、うまくできるとそれだけ喜びも大きいんです！

うちのモモで作ったジュースも自信作！



かれた農業フェアに参加したところ、福島市にある福島県農業総合センター果樹研究所で、栽培技術を1年間学べる研修制度があると知りました。実は僕の両親は福島県出身で、当時も県内に住んでいたのですが、両親の近くにいられる福島市で果樹栽培を学ぼうと決意。しかし2011年4月からの研修に向けて引越準備を進めていたさなか、3月に東日本大震災が発生しました。不安がありました。しかし、「夢のために学びたい」という気持ちが強かった僕は、予定通り福島市内のアパートに妻と引越越し、研修に取り組み始めました。当時は大変な時期だったこともあり、農家の人にも一般の人にも「福島に来てくれてありがとう」とよく声をかけていただいたものです。そんなふうに関わり合っているうちに、福島で自分の畑

を持って果樹栽培をやっていきたいと思うようになりました。

**一から築く新生活に
 夢はどんどんふくらみます**

研修終了から半年後、畑になる土地と新居を見つけた僕たちは、新たなスタートを切りました。約40アールから始めた畑は今では合計約250アールになり、畑の9割でモモ、1割でリンゴを栽培しています。

町内会の行事に積極的に参加することで、近所さんたちと打ち解けることもできました。顔を合わせることで「うちにお茶飲みにおいて」と誘ってくれて、そのたびに福島の人には温かいなとしみじみ感じます。新居で飼い始めた愛犬・福ちゃんとの散歩中に、声をかけてもらって仲良くなった人も多かったですよ。

今後の目標は、たくさんの人にうちのくだものを食べてもらうこと。「去年おいしかったから今年も！」と注文をいただいた時、すごくうれしくて、これが農家の醍醐味なんだと実感しました。そんなふうになんか多くの方に大内果樹園のファンになってもらえるよう、これから頑張っていきます！

大内さんご夫婦の一日…

^Åwù ws » Ü{
 Si•S[>MhiVs
 U'° mV‡•

„2
 “Äw™xz M
 ú•jX~ñjœæw
 S„2tTZ‡b{

)-™z@¶~ ~GV^sr>
 _o“üZ'oT'z+”w-L
 Ö•á|‡b{

)-
 Fw‡‡w)-8txz
 äÇT'Gi,

